

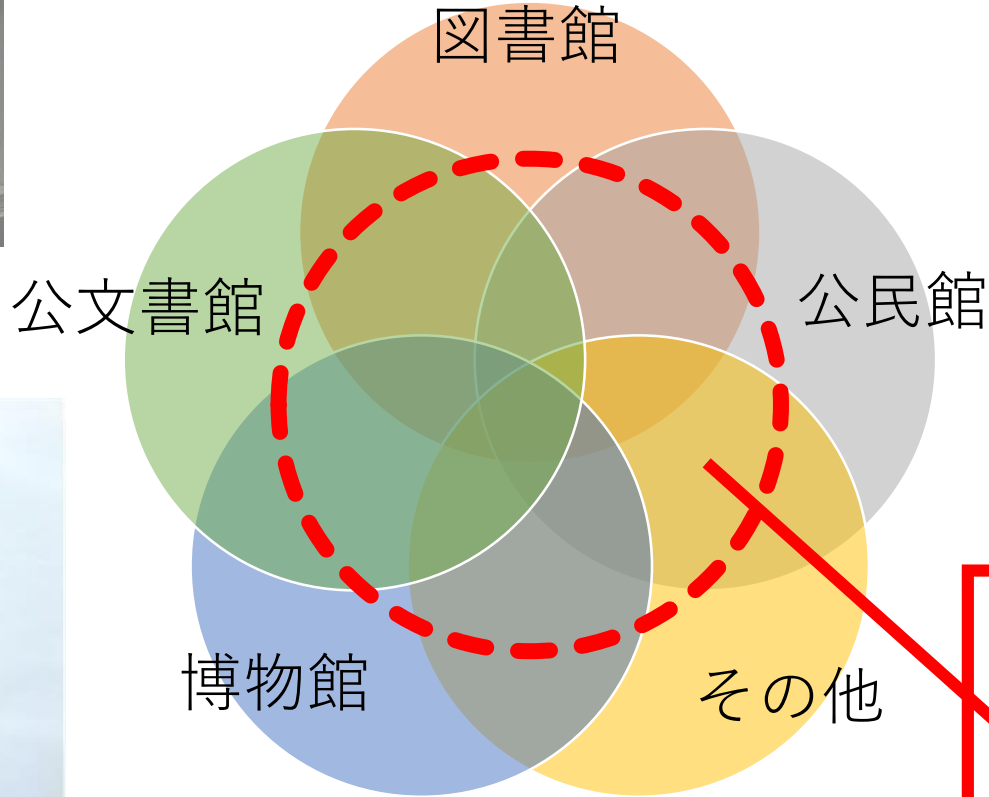
# 機能の融合について

(大熊町社会教育複合施設の整備方針イメージ)

「歴史資料として重要な公文書」



「図書や記録、その他必要な資料」



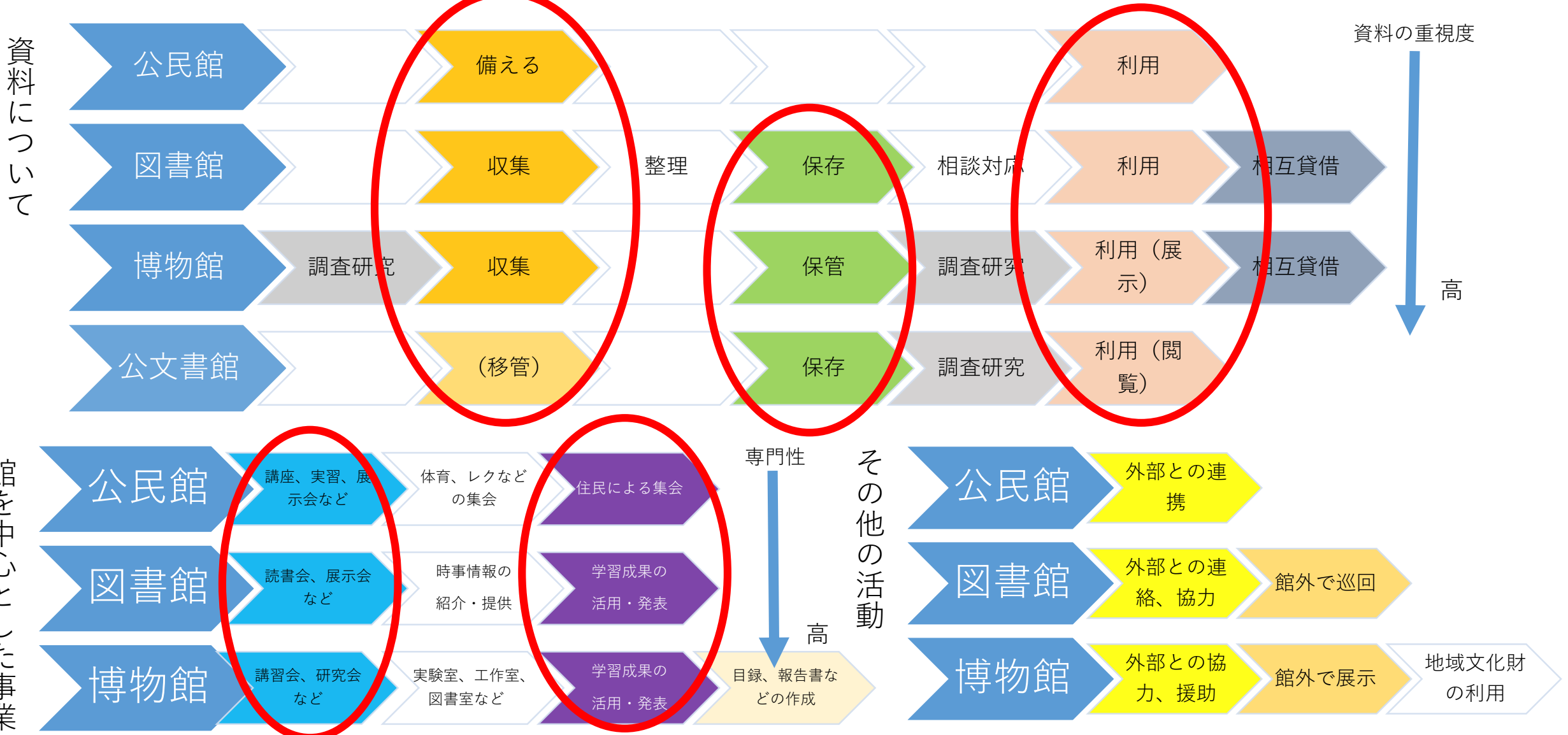
「実生活に即する教育、学術、文化に関する各種事業」



「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料」

**重なる部分を大事にしたい！**  
 資料や人を共有して、  
 気づきや学びのきっかけを  
 増やしたい。  
 「複合」というより「融合」

法律にある各機能（施設）の主な事業（公民館：社会教育法、図書館：図書館法、博物館：博物館法、公文書館：公文書館法）



※公文書館は、具体の事業内容等について法律上での明記なし

- 専門職員
  - 公民館…公民館主事
  - 図書館…司書／司書補
  - 博物館…学芸員／学芸員補
  - 公文書館…歴史資料として重要な公文書等について調査研究を行う専門職員

## 整備場所 JR大野駅西口を予定

- ・ 駅西口を町が面的に整備。
- ・ 先行して産業交流施設、商業施設が整備される予定。
- ・ 当施設は現時点の方針では、大野駅に最も近く「まちなか顔」としての役割が期待される。

※あくまでも計画段階でのスケッチであり今後変更する可能性あり。



# 現時点で移管が決まっている資料

## (1) 図書館

地域資料	参考図書	特定主題等	合計
約3000点	約5000点	約22,000点	約30,000点

※その他館内の家具を新施設及び周辺施設で活用できないか検討中

## (2) 博物館

- ・自然資料…オオクマイルカ骨格模型など3件
  - ・考古資料…道平遺跡土偶、棚和子古墳出土須恵器大甕、長者原横穴墓出土馬具など約280件
  - ・歴史資料…熊町中野家文書、泉家修験関係資料など約700件
  - ・民俗資料…農具、林業関係資料、生活雑器など約850件
  - ・美術資料…震災前に町内風景を描いた絵約10件、泉家仏像5件など
  - ・古民家……旧民俗伝承館内「吉田家」復元展示2棟、ジオラマ模型1点
  - ・石造物……中間貯蔵施設建設用地内からレスキューしたもの20件
  - ・アーカイブズ資料…震災資料、原発関連資料、避難生活関連資料など約970件
- 計2,838件（内まほろん保管1,682件、スポセン保管1,153件、県博3件）

## (3) 公文書館 未定

## (4) 公民館・文化センター

グランドピアノ（スタインウェイ）1台

# 5/28 第1回 社会教育複合施設ワークショップ 報告

→参加者6名（町民3人、仕事で町に関わっている人2人、双葉郡への県外移住者1人）

テーマ:

社会教育複合施設内に存在することが想定される「図書」「文化財」「歴史公文書」「場（公民館としての）」の活用方法とし、「**自分はこういう風に利用したい、活用したい…**」一利用者として活用の具体例を引き出すことを目的とした。

※「あったらいいな」や「町はこうすべき」という理想ではなく、主語は「私」。

まとめ:

**資料や文書等を活用するにあたり、資料から直接というより、人を介在した学びや交流を求める声が多かった。**

グループ①

- ・町の記録としての歴史公文書により施策の背景を知り、町の未来へ生かすこと。
- ・原発誘致時の町の状況を知り、誘致反対派がいたことの記録を残したい。
- ・「資料」から得る情報ではなく「人」に会い、話を聞くことで得る情報を求める意見。
- ・「ここが大熊である」と避難した町民が思える場所として図書館を残す意見。
- ・図書館周辺の公園も残すことを求める声があった。

グループ②

- ・モノ資料が残っていないような町の歴史や営みについて、口述で伝えていきたいという町民からの意見
- ・仕事でかかわる人からも町民から文化財資料にまつわる町の歴史を聞きたいという声。
- ・町の遺跡や歴史の痕跡が残る場所を回るツアーの開催。
- ・本や音楽に囲まれてゆったりと過ごせる空間。
- ・常設展示ではなく利用者のニーズに合わせて資料を活用する方法の模索、などの提案。